

会 議 録

平成 30 年 10 月 12 日調製

審議会等名	平成 30 年度 第 1 回三条市文化財保護審議会		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成 30 年 9 月 4 日（火）午前 10 時から 11 時 30 分まで		
開催場所	三条市中央公民館 音楽視聴覚室	傍聴者	なし
		報道機関	2 人
出席者	審議会委員 荒木会長、渡辺副会長、岡村委員、佐藤委員、関委員、高橋委員、長谷川委員、松岡委員、六原委員		
	事務局 渡辺市民部長、恋塚生涯学習課長、田村係長、勝山主任、高野主任		
欠席者	石澤委員、岩田委員、熊倉委員、平山委員、松井委員		
議題	(1) 中浦歌舞伎関係資料所在確認調査報告について (2) 歴史の道八十里越保存・活用事業について (3) 平成 29 年度文化財関係事業報告について (4) 平成 30 年度文化財関係事業計画について (5) 『三条市文化遺産リスト』追加候補物件について		
会議内容			
	(1) 中浦歌舞伎関係資料所在確認調査報告について		
荒木会長	説明についてどうするか。		
事務局	調査を担当していただいた高橋委員から説明をお願いしたい。		
高橋委員	<p>昨年 11 月に、中浦集落センターと民家に保管してあった中浦歌舞伎関係資料の状況確認を行った。中浦歌舞伎に関する情報が少ない中、今回の調査で、大切に保管されていた美しい衣装や手作りと思われる小道具があり、地域で愛されてきた民俗芸能であったことを再認識した。</p> <p>中浦歌舞伎については『下田村史』に記載があり、文政年間に中浦集落の人が上方参りの時、見てきた歌舞伎に魅せられ、自分たちで始めたのが発端とされている。昭和 48 年の新潟日報紙には「最後の上演」ではないかと報じられている。また、昭和 55 年に鹿峠中学校で郷土芸能クラブが発足し、中浦歌舞伎を存続させようという活動があったというのが、昭和 61 年に下田中学校に統合されたため、その活動も途絶えてしまったということで</p>		

	<p>ある。</p> <p>所在確認調査では、資料の点数などの細かな確認はしていないが、今年度行われている資料の詳細な調査が進み、中浦歌舞伎の実態が解明されることが期待される。写真、台本、衣装や小道具などの資料は、三条市の歴史資料として是非保存していただきたい。</p> <p>今年6月の調査では、歌舞伎に出演された方の家に、以前、自分が使った台本などの資料を自宅に保管していたが、もう必要ではないと思い数年前に焼却してしまったというお話を聞いた。今後、中浦歌舞伎の調査を進める中で、関係者以外でも写真を撮った方や、資料をお持ちの方もいるかもしれないので、地域の芸能を担った中浦歌舞伎について、今後も広く情報を求めていきたい。</p>
関委員	茶箱や段ボールなどに収納、保管されている衣装や台本などは、今後、詳細な調査を進めるのか。
事務局	今年度6月から詳細調査を進めていて、資料の写真撮影、目録作りや聞き取りなどを行った。これから整理し成果をまとめ報告させていただくことになる。
高橋委員	現在進めている調査で確認された台本類には「菅原伝授手習鑑」、「一谷嫩軍記」、「奥州安達原」などの有名な歌舞伎のものがあつた。江戸時代の刷り物もあり、中には、ある役の台詞だけを書き出したものもあつた。
荒木会長	東京などで演じられていた演目が中浦歌舞伎でも演じられていたということである。是非、周辺の方々にも呼びかけて、中浦歌舞伎に関する新しい資料の発掘をしていただきたい。
関委員	以前、『加茂市史』関係で市川家の資料の調査を行い、衣装や台本などを見せていただいている。
六原委員	中浦歌舞伎が演じられなくなったのはいつ頃のことか。
高橋委員	昭和50年代に一度公演されなくなり、中浦歌舞伎を存続させようと鹿嶋中学校で郷土芸能クラブができて復活させた。その頃はまだかつて演じていた方が指導することができたと思う。当時一生懸命やっていた方々は、現在90代以上となっている。その後、中浦小学校の文化祭などで演じられてきたが、平成8年に中浦小学校が飯田小学校に統合されてからは、演じられなくなったと聞いている。
六原委員	貴重な衣装や資料があるので、歌舞伎の復活は難しいようであれば、関係資料を保存できるようにし、再興につながるようにした方が良い。
荒木会長	どうして下田地区の中で中浦集落だけに歌舞伎が伝えられていたのか。
高橋委員	『下田村史』によると、文政年間に中浦の高野平十郎が上方参りの途中歌舞伎を見て感動し、地元に戻り中浦でも歌舞伎をやり出したのが始まりと言われている。熱意のある人が集まって皆で一緒にやりだしたのではないかと思われる。江戸時代には娯楽があまりなく、若い人達が酒を飲んで

	遊んでいるだけでほかに何かをやることがないかということで、歌舞伎に打ち込むようになったのではないかとも思われ、そういう教育者的な人がいられたのかもしれない。
渡辺副会長	中浦歌舞伎はどのような時に演じられていたのか。
高橋委員	地元の神社のお祭りの時の演じられていたようだ。
松岡委員	木戸銭なども取ったりしているのか。また、帳簿などの記録類も残っているのか。
高橋委員	木戸銭を取っていたようであるが、帳簿などは見つかっていない。集落の民家でやった時などは、御祝儀を書いた紙を貼ったりしてやっていたと、当時演じていた方々が大変懐かしそうに色々な話をしてくださった。中浦の何軒かの民家で演じたことがあって、100人くらいの観客が来たそうで、そのうちの1軒でお話を聞くことができた。中浦はもちろん、その周辺集落の方々は、すごく歌舞伎を愛していたんだと伝わってきた。
荒木会長	ほかに質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
	(2) 歴史の道八十里越保存・活用事業について
荒木会長	まず、私の方から報告をさせていただく。昨年度の第1回文化財保護審議会で、歴史の道八十里越調査保存整備委員会の委員候補者の推薦依頼があった場合、必要とされる専門分野などを考慮し、会長、副会長で相談して選出することで御一任いただいた。事務局から平成30年3月に委員候補者の推薦依頼があり、渡辺副会長さんと相談させていただき、八十里越の地元、森町地区に在住で非常にお詳しくいらっしゃる石澤委員さんを推薦させていただいた。
	続いて、事務局より説明願いたい。
事務局	歴史の道八十里越保存・活用事業を平成27年度から行っている。平成29年度は本格的な現地調査を開始し、主に発掘調査と測量調査を行った。発掘調査は空堀茶屋と鞍掛峠を行った。調査成果として、鞍掛峠ではつづら折部の現道の下層から、当初2間幅で作られた旧道跡が良好な状態で埋没している状況を確認できた。また、空堀茶屋では、土留めの石が良好な状態で残存し、建物のおおよその規模を確認することができた。肥前の端反型小碗、煙管の雁首などの遺物が出土し、茶屋で使用されたものと考えられる。
	旧街道の測量は、県道または国道の道路台帳図を参照しながら進め、吉ヶ平側から4kmの延長を測量した。崩落していて残存状態がよくない場所もあり、今後安全に通行できるように史跡整備を進める必要があるということが判明した。
	歴史の道八十里越調査保存整備委員会については、只見町、魚沼市と共同で設置したもので、平成29年度は只見町で開催した。委員は7人で構成

	<p>され、委員長に伊藤正義氏、副委員長に内田和伸氏が選出され、平成 29 年度までの事業と平成 30 年度事業計画についての協議を行った。いくつかの旧街道のルートがある中で、現在通行可能である明治中期に整備された新道を調査し整備を進め、国の指定を目指すこととなった。また、現地にはそのほかにも古い道跡があるので、それらも調査し可能な限り時代ごとのルートを明らかにする作業が必要である。そのほか、史跡整備については、相当な困難が予想されるため、整備の方法や内容について早めに方針を決定する必要がある。平成 30 年度以降に調査・整備を進めていくこととなった。</p> <p>平成 30 年度事業計画は、測量と発掘調査を行う予定である。発掘調査は高清水沢を中心に調査を行う。旧街道の測量は、昨年度に引き続きブナ沢の手前まで 5.1 km の範囲を行う。</p>
荒木会長	ルートがわからなくなっている部分もあり、困難な調査をよく進めていると思う。資料の地図もわかりやすくまとめられている。
松岡委員	歴史の道八十里越は、現在も人が住んでいる集落を通っているのか。
事務局	新潟県側の起点は吉ヶ平であるが、昭和 45 年に集団離村したので、現在は集落はない。福島県只見町側は、現在ある叶津集落の口留番所跡が起点となっている。
松岡委員	歴史の道は登山道とかハイキングコースのように整備し活用することになるのか。
事務局	歴史の道は、街道跡の歩ける部分を整備し史跡指定をすることになる。全体では距離が非常に長く、上級者向けコースになると思われる。ハイキングや子ども向けには、吉ヶ平周辺を周回するようなコースを検討していく必要がある。
荒木会長	八十里越の名称は、八里の道だがその 10 倍ほど難儀な道だということで付けられたと言われている。戊辰戦争では河井継之助が戸板に乗って越え、明治・大正時代にも使用されてきた峠道である。それが新しい形で復活されるのは喜ばしいことだ。
岡村委員	図面を見ると天保 14 年や明治の道のルートが描かれているが、整備するのは当時のルートを歩きやすいように整備するということなのか、それとも全く新しいルートで道を整備するということなのか。
事務局	歴史の道八十里越は、基本的に明治に改修されたルートを歩けるように整備していくことになる。
荒木会長	ほかに質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
	(3) 平成 29 年度文化財関係事業報告について
荒木会長	事務局より説明願いたい。
事務局	会議は文化財保護審議会を 2 回開催した。文化財の指定は三条市指定有

	<p>形文化財に赤松遺跡出土岩偶が指定された。文化財調査は、中浦歌舞伎関係資料所在確認調査などを実施し、文化財説明板等の整備は、新潟県指定無形民俗文化財三条神楽説明板を塚野目白山神社など3か所に設置した。文化財の公開・活用は、無形民俗文化財に指定されている三条神楽、栄神楽の鑑賞会をそれぞれ開催した。また、下田郷のいしぶみ調査の成果を活用した事業を行い、参加者から大変好評をいただいた。そのほか、企画展「よみがえる吉ヶ平」は整理調査を進めてきた成果を展示公開したもので、展示会期間中に、吉ヶ平集団離村時の記録映画上映会や講演会なども開催した。</p> <p>埋蔵文化財の本格的な発掘調査は、石田遺跡・梅田遺跡発掘調査を実施し、開発予定に伴う埋蔵文化財の基礎資料を整備するための試掘・確認調査なども実施した。埋蔵文化財の調査見学や埋蔵文化財の貸出、資料提供などが近年大変多くなっている。遺跡発掘調査の成果を活用した事業として、遺跡展示会、遺跡めぐりや遺跡体験出前講座などを実施し、また、遺跡発掘調査に合わせ現地説明会も開催した。そのほか、信濃川火焰街道連携協議会事業は、日本遺産魅力発信推進事業などを実施し、11月7日に「火焰型土器を2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に」をアピールするため、遠藤利明五輪組織委員会副会長に要望書を手渡した。</p>
荒木会長	<p>企画展「よみがえる吉ヶ平」・企画展「森町地区のいしぶみたち」の入場者数が、2,434人と非常に多く、また講演会にも90人が参加している。地元の皆さんが非常に興味を持っているということか。</p>
事務局	<p>この企画展は、下田郷の歴史遺産再発見事業として今まで知られていなかった歴史遺産の調査を進め、その成果を発表させていただき、多くの方々に知っていただくために実施したものである。大勢の皆さんから大変興味を持っていただき、参加者アンケートでも好評の回答をいただいている。</p>
荒木会長	<p>「親子でめぐろう！ 夏休みした歴史探検」は、非常にユニークな名前で、参加者は8人だが有意義な見学会だと思う。参加者の反響はどうであったか。</p>
事務局	<p>道端にあるいしぶみやお地蔵様などについて、子どもたちが昔であれば家のおじいさん、おばあさんなどから聞いたりしてその謂われなどを学ぶ機会があったが、近年は学ぶ機会が少なくなっている。下田のいしぶみは多種多様なものがあり、夏休みの自由研究にもなり、親子で学習していただくために毎年テーマを変えて開催し好評をいただいている。興味をもった子どもは昨年に引き続き今年も参加している。</p>
荒木会長	<p>地元の歴史に興味を持つ子どもが増え、その子どもが大人になって地域の歴史を勉強することになるとすばらしい。</p> <p>特色ある下田郷のいしぶみに関する事業だが、「いしぶみ座談会」や「いしぶみめぐり」について地元の下田郷の方はどのような感想を持っているのか。</p>

事務局	いしぶみ座談会は下田郷土史研究会の方に講師を依頼して実施しており、長谷川委員から講師になっていただいている。
長谷川委員	担当した長沢地区では、大変大勢の方から集まっていた。地元のいしぶみについて興味を持っていられたのが印象的だった。
荒木会長	ほかに質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
	(4) 平成 30 年度文化財関係事業計画について
荒木会長	事務局より説明願いたい。
事務局	<p>会議は、文化財保護審議会を 2 回開催する。文化財調査は、昨年度に引き続き歴史的建造物詳細調査、下田郷のいしぶみ調査、中浦歌舞伎の衣装・台本などの関係資料の詳細調査や地元からの聞き取り調査を行う。文化財の公開・活用は、下田郷のいしぶみ調査の成果を活用したいしぶみめぐりや企画展などを下田郷土史研究会と共同で実施する。また、中浦歌舞伎詳細調査の成果を活用しながら、中浦歌舞伎を多くの皆さんに知ってもらい再興への機運を醸成するため、ワークショップを開催する予定である。そのほか、今年が慶応 4 年、明治元年の戊辰の年から 150 年の節目にあたることから、三条での北越戊辰戦争と当時の町の様子などを紹介する講演会やいしぶみ・史跡めぐりを開催する。</p> <p>埋蔵文化財の調査は、国道 403 号三条北バイパス事業に伴う石田遺跡発掘調査などを行い、歴史の道八十里越の本格的な調査も引き続き実施する。埋蔵文化財の活用は遺跡展示会、遺跡体験出前講座や遺跡めぐりなどを開催する。</p>
荒木会長	神楽鑑賞会が開催されているが反響はどうか。
事務局	<p>県外からも鑑賞会の見学の問合せがある。また、それぞれの鑑賞会では、各神楽舞の由来などを解説付きで上演し、参加者の神楽への理解につなげている。三条かぐら鑑賞会では演目に工夫を凝らし、同じ神楽舞を違う神社で上演し、6 社それぞれ少しずつ異なる舞の違いを見ていただいたりし、多くの市民の方々に御来場をいただいている。</p>
荒木会長	埋蔵文化財の活用では、津南町や只見町などとの交流事業があり喜ばしいことであるが、お互いに呼びかけて行っているのか。
事務局	<p>遺跡めぐりは信濃川火焰街道連携協議会加盟の津南町と連携しながら、日本遺産を情報発信していく取組として実施している。今年度、津南町で開催する特別展「火焰土器の魅力」に三条市内出土の火焰型土器が展示されるので企画をした。また、会津只見考古館まつりの出展は、昔から只見町と下田地区を中心とする三条市は、いろいろな歴史の道八十里越の往来を通じて文化交流を育んできたため、引き続き歴史の道八十里越を通じた文化交流を深めるため、会津只見考古館まつりに合わせて三条市内出土の火焰型土器を展示していただき、只見の皆さんに三条の歴史などを知って</p>

	いただく機会を設けさせていただいた。
荒木会長	ほかに質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
	(5) 『三条市文化遺産リスト』追加候補物件について
荒木会長	事務局より説明願いたい。
事務局	市内に所在する文化財の適切な保護を図る基礎資料として、文化財保護審議会の各委員から推薦していただき『三条市文化遺産リスト』を整備している。リストに掲載されていない未指定・未登録の物件で、保存・活用が必要と認められる市内所在の文化遺産があったら調査票を提出していただきたい。
荒木会長	何か質問、意見はあるか。
	(質疑、意見なし)
荒木会長	これで閉会とする。

以上